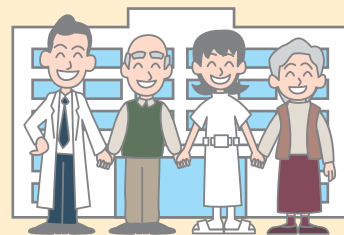


もしもしフォーラム

読者のみなさまとコミュニケーションをとりたい。
そんな思いを込めた情報ページ「もしもしフォーラム」では、
身近なニュースから心あたたまる話題まで、
みなさまに役立つ情報をご紹介します。



読者からの お便り

今回は、昨年約1ヶ月の入院生活を過ごされ、
現在はさまざまな趣味に取り組んでいらっ
しゃる大井さんの体験記をご紹介します。



練馬区在住 大井 正男さん

入院生活が教えてくれた 普段通りに毎日過ごすことの幸せ

9年前、妻にホスピスで先立たれ、私は一年間何も
手につかず呆然と過ごしました。見かねた娘から区
報に掲載されていた「俳句」「俳画」「水泳サークル」
や男の料理教室への参加を勧められ、「友達をつく
ること」「趣味をもつこと」「よく歩くこと」に頑張れ
るようになりました。

昨年7月、調布市神代植物園の俳句会に参加した
時のこと。ついでに深大寺動物霊園の愛犬と愛猫
のお墓にお参りし、俳句の出句時刻に遅れそうで友
人と2kmを全力で走りました。その時、左足のつけ
根にコリコリした固いものがあることに気づきました。
リンパ節が腫れていたのです。



さっそく町の診療所や大きな病院で診察を受け
ましたが、ハッキリとした診断がつかせませんでした。
近くの図書館で司書の方の力を借り『きょうの健康』
という雑誌を手にして、「リンパ浮腫」の記事を読み
ました。一ヶ月ほど経つと左足の甲がパンパンにむく
んできました。すぐる思いで『きょうの健康』に記事
を寄せていた医師を頼りにNTT東日本関東病院を訪
ねた時には、もう9月に入っていました。

娘がインターネットで検索したところ、血液内科も
充実していることも判ったのです。明日にでも入院
して精密検査を受けるように言われ、リンパの病気と
診断されました。

どうして自分が、と不思議でした。病室が満員でと
りあえず11階の個室へ入院したのです。そこはまる

で一流のホテルのように、広々として設備も完全で
したが、夕刻娘が病室へ来てくれるまでは、一日中話
し相手もおらず不安が募りました。個室の入院は、静
かすぎて私には耐えがたいことでした。書道七段の
友人が個室へ見舞いに訪ねてくれた時は、うれしく
て思わずポロリと涙が出たほどです。

部屋が空き次第、4人部屋へ移動したいと長男
が病院へお願いしてくれて、11日目に9階の4人
部屋へ引越してきました。同室の先輩がいろいろ
アドバイスをしてくれてありがたかったです。食事は
食堂に運んでもらい、毎食ワイワイと賑やかに
過ごし、個室の淋しさはふっとんでいったのです。
主治医の先生は診察に充分時間をかけて、小さな
疑問にも目線を合わせてニコニコ答えて下さり、
不安な気持ちが消えていきました。放射線技師の
先生方も看護師さん達も親切でいろいろ話を聞
いてくれました。



治療が一段落し、3kg減った体重も少し戻ってホッ
としています。月に一度の診察日は長男が車で迎え
に来てくれます。今は新しく水泳や合唱の趣味も増え、
先日、近くの小学校の発表会で「古城」という歌の二
番をソロで歌いとげました。

31日間の入院生活は普段通りに毎日
過ごすことの幸せを教えてくれました。
これからもプラス思考で、百歳まで生き
抜く気持ちで頑張ります。